

小型武器の脅威とは

「冷戦の落とし子」「事実上の大量破壊兵器」

1996年までの内戦の被害者数は23カ国で3,500万人以上と推定されており、最近の紛争で最も多く用いられる武器は、自動小銃などの小型武器です。冷戦中に生産された小型武器は推定7,000万丁におよびます。冷戦中に紛争地域に大量に流入し蓄積されたこれらの小型武器は、実際に使用され、紛争を激化・長期化し、多くの死傷者を発生させるので「冷戦の落とし子」、「事実上の大量破壊兵器」ともいわれます。

「復興開発」の障害

紛争中に流入し蓄積された小型武器は、紛争終了後も市中に残され、治安を不安定にし、紛争を再発させる誘因になります。そして復興開発の障害となっています。

増える「少年兵」

小型武器は安価で使い方も簡便であり、子どもでも扱うことができるため、世界各地の紛争では小型武器を持った子どもが少年兵として直接戦闘に参加しており、深刻な問題となっています。1988年だけでも紛争に参戦した16歳未満の兵士は約20万人にのぼります（ユニセフ発行96年「世界子供白書」）。少年兵増加の問題にはさまざまな原因がありますが、小型武器が広く使われるようになったこともその理由の一つです。



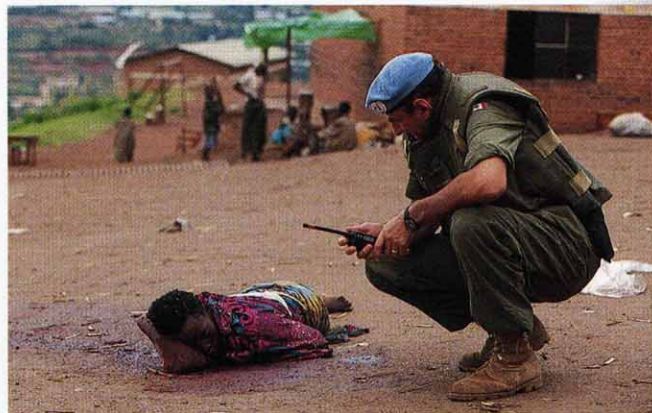
キンシャサ近郊の少年兵
(コンゴ民主共和国 1997)



小型武器を抱える女性兵士
(ボスニア・ヘルツェゴビナ 1992)

「人間の安全保障」を脅かすもの

小型武器を主要武器とする最近の紛争では、子女を含む一般市民の負傷者や難民の問題が深刻になっています。小型武器は、個人としての人間の生存・尊厳に対する脅威を作り出す武器でもあるのです。



流れ弾に当たり瀕死の女性とUNAMIR（国連ルワンダ支援団）の兵士
(ルワンダ 1994)



— 小型武器の種類 —

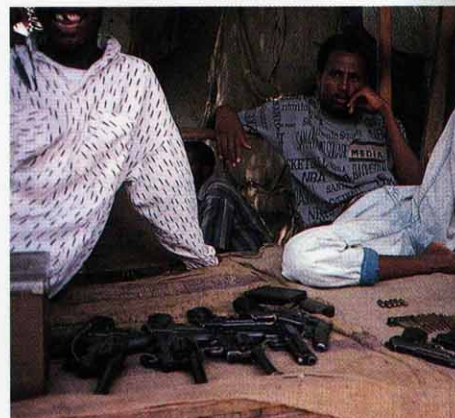
小型武器問題で対象とする武器には、一人で運搬し使用する「小火器」、2、3人で運搬・使用する「軽兵器」、それに弾薬や爆発物などが含まれます。具体的には拳銃、AK47やM16をはじめとする自動小銃、携帯用小型ミサイルなど。特にAK47は組立も単純なため、途上国を含む約70カ国で生産されています。現在政府に承認されずに世界に出回っている武器の総数は5億個にのぼるともいわれ、またこのうち1億個は自動小銃であるといわれています。（なお、対人地雷は小型武器の一種ですが、1997年に対人地雷禁止条約が締結されたので、一般に小型武器問題の対象からは外されています。）



主な武器輸出国

- 米国
- 中国
- スペイン
- スウェーデン
- ロシア
- オランダ
- イスラエル
- モルドバ
- フランス
- イタリア
- チェッコ
- ポーランド
- 英国
- ウクライナ
- ベラルーシ
- オーストラリア
- ドイツ
- カナダ
- ベルギー
- スイス

「1999年SIPRI年鑑」より



拳銃、自動小銃などが格安で売られるモガディシオ市内の武器市場
(ソマリア Apr. 1994)



ロケット砲で両手を失った少女
(ソマリア Apr. 1995)

小型武器問題への取り組みは
「紛争を予防」し
「開発の基盤」を整備するための
取り組みでもあります。



キンシャサ近郊で
(コンゴ民主共和国)



1996年3月、マリは国連の協力の下に「平和の炎」式典を開催し、
約3,000丁の小型武器を焼却しました。

